

「現場で役立つブランドづくりノウハウ研究会」成果発表会

【発表者とテーマ】

(発表順)

所属	発表者	テーマ・要旨
守山市	羽田野祐樹 中塚清	テーマ：「The brilliant City～きらめき実感！守山市～」 魅力を活かした戦略として、駅前中心市街地でホテルを見ながら飲み食べ歩きができる「エキマエほたる。」、守山市内は山が無く、最大高低差約 20m というフラットな地形を活かした自転車の取組「モリヤマ Cycle Net」、市民自らが広告マンになり、守山市の魅力や満足感を口コミ感覚で積極発信する取組「もり☆なび！」を展開！
栗東市	太田雅美	テーマ：「栗東市金勝地域ブランド戦略」 栗東市の南部中山間地域の金勝地域の農業を守るため、栗東の食・水・地域を支えるため、「農業で起業する若い定住者を増やすこと」に挑戦したい。 金勝地域の、農業をしてよし、暮らしてよし、自然よし、の3方良しを地域ブランド化してアピールしなくてはなりません。 そこで「馬のまち栗東」を前面に、自然豊かな都市近郊をセリングポイントに心豊かな田舎暮らしを提案します。
草津市	高木佑輔 吉富豪	テーマ：「草津市の地域ブランドづくり」 草津市には温泉はありませんが、古来より旅人が行き交う宿場町として今もなお発展を続けています。 草津市は、『旅人が集う現代の宿場町 草津』を目指し、みなさんの旅を更に良いものにしていきます！ ～3つのゾーンでおもてなします～ ★歴史との出会い★ 東海道・中山道「宿場・街道ゾーン」 ★自然との出会い★ 湖岸地区「自然・保養ゾーン」 ★人・モノとの出会い★草津田の田上 I.C 付近「交通ゾーン」
大津市	田中宏典 久本玲奈 木下智香子	テーマ：『健康と癒しの街おおつ！』 近年の競争社会の中、健康と癒しを求める人が増えています。しかし、関西圏内においては、『健康と癒し』をコンセプトとして売り出している自治体はありません。関西圏に在住する健康志向の人々をターゲットに、関西圏に近接するという好立地条件を活かし、大津市や琵琶湖が持つ観光・歴史資源や、自然を活用した、新しい視点からの『健康と癒し』をコンセプトとした独自のブランドを提案します。
東近江市	福永聡 高田沙弥佳	テーマ：「近江商人のまちで宝探し」 例えば日常の生活では価格の安さ、ビジネスでは数字といったものにとらわれるあまり、心のゆとりが持たなくなってしまうのではないのでしょうか。 この東近江市から、近江商人としては後進であったにもかかわらず、なぜ豪商と呼ばれるまでに成功したのか、そのヒントを素晴らしい町並みとともに発信したいと思います。その答えとともに疲れた心を癒したり、日本人が忘れてしまった何かを見つけたりできるかも知れません。
甲賀市	清水達也	テーマ：甲賀市のブランド戦略（忍者編） 甲賀市には東海道の宿場町をはじめ、紫香楽（信楽）、甲賀流忍者などのさまざまな観光資源があります。 なかでも「忍者」は戦国時代、諸国の大名にその特殊な知識や技術をかわれ、歴史のなかで重要な役割をはたしていた影の立役者といわれています。 子どもから大人まで、国内から海外まで人気のある「忍者」を中心に、住民にとって楽しい「まち」、誇れる「まち」を目指して、ブランド戦略（忍者編）を考えてみました。
彦根市	渡邊裕子	テーマ：古くて新しい街「ひこね」をめざして 滋賀県彦根市は、人口約 11 万人の街です。そこに、年間 200 万人前後の観光客が訪れます。この観光の街「ひこね」が、さらに発展するために、「ひこね」のことを考えました。まずは、「ひこね」がどういう街か、そして、今後どのような挑戦が必要か。そこで見えてきたのが、「古くて新しい街」というコンセプトと、滞在型観光にむけた新たな取組です。彦根らしさを大切に、発表したいと思います。